

自然環境保全地区について (吉羽天神社周辺保全地区の現在の状況)

1) 接続水路の水量減少

吉羽天神社周辺保全地区（以下、「保全地区」という。）内にある池跡地（吉羽 509）は、かつては、接続する農業用排水路の調整池としての役割を担っていたと考えられ、平成 24 年 3 月時点では、池に水があることを確認しております。

現在、農業用排水路の水源は、保全地区の周辺の商業施設内にある雨水貯留槽からの放流水等です。農業用排水路の通常の水位は 1cm 程度、池跡地に接続している越流堤の高さは約 40～50cm であり、降雨により農業用排水路の水位が約 40cm を超えた場合に、池跡地に水が流入することから普段水はありません。

※参照 P4～5 の写真①、②、③－1、③－2、③－3、④

2) 生物多様性の減少

平成 23 年 8 月 29 日の保全地区指定時には、水辺に棲むトンボや、重要種であるアサマイチモンジ（チョウ目）の生息を確認しております。

しかし、令和 7 年 3 月に策定した緑の基本計画策定に係る調査（令和 5 年 8 月～令和 6 年 6 月実施）の際には確認できませんでした。

今後、池跡地は、水量の不足などの環境の変化により、生物多様性の回復は難しい状況と考えられます。

※重要種：文化財保護法、種の保存法などの法や条例で指定されているもの、環境省レッドリスト、埼玉県レッドデータブックなどで位置付けのある種を指します。

3) 地元の方からの聞き取り

吉羽天神社としての特段の位置付けはなく、地元としても管理しているといった状況ではないとのことです。

吉羽天神社周辺保全地区区域図（平成27年1月）

凡例（黄色：開発予定区域、黄緑色：自然環境保全地区、青色：農業用排水路）



吉羽天神社周辺保全地区区域図（令和7年1月）

凡例（黄色：開発予定区域、黄緑色：自然環境保全地区、青色：農業用排水路）



状況写真（令和8年1月撮影）

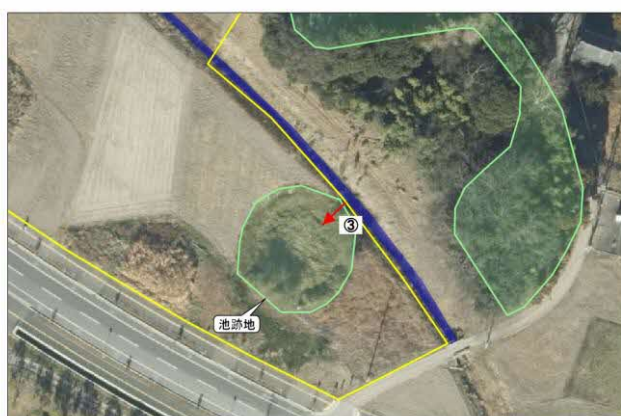
①農業用排水路



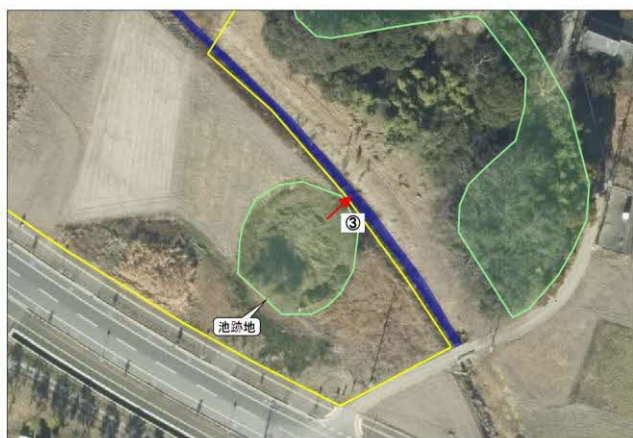
②池全景



③ー1 越流堤導水路（水路側から）



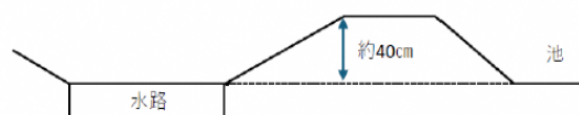
③—2 越流堤導水路（池側から）



③—3 越流堤の高さ（約 40cm）



農業用排水路と池跡地の断面図



④ 農業用排水路の上流部

